

亡き貞子様を偲んで

江藤 ヤエ子



五月三日の朝、重朝様からの電話で、貞子様の突然の訃報を知りました時は、驚きました。

た。数年にかけて癌の治療をされており、「病気も回復しましたので、また頑張りますね」と、ベンシルクラブで話して居られましたので、また入来での「炉ばたセイ談会」も開催されるのだと喜んでいたのでした。

お二人が早稲田大学時代に、学生結婚をされたことは、貞子様と会った、私の兄から聞いておりましたが、仕事を終え、郷里に帰郷されてからのお付き合いでしたので、約二十年でしょうか？ 横脇に住む叔母の葬儀の折に、従姉・久子様から「貞子様はあつさりした良い人だよ」と聞き、お会いする日を楽しみにしたものでした。

入来院を訪問しますと、少しボケが出ていた姑の世話も笑顔としておられ、姉は幸せだなと思うことでした。五月五日の葬儀の折には、子福者の貞子様が羨ましくなりました。

子供や孫たちが大勢で、遺族席の端に座つた私は間もなく訪れるであろう自分の葬儀には、誰も居ないのだなど淋しく思いました。

相星先生の弔辞を聞きながら、私は何度も

語り合いました。熊本から來ていた甥は、まだまだ遣り残した事が多かつたことと思いまます。一人残された重朝様には淋しくなられましたね。

「そんなことがあったの」と、興味深く聞い

ておりました。

信州から薩摩に嫁ぎ、入来文書を学び、花水木会を立ち上げて、薪能も開催され、本当に忙しい毎日だったと思います。その上、お父上様のご意思を守り、信州・長野霧ヶ峰・昭和寺には、三男の大圓さまを継がせて、気配りも大変だつたことでしょう。

私は、重朝様の叔母だというだけで、会員にいれて頂きましたが、なにごとにもベテランの皆様には足並みを揃えることが出来ず、申し訳なく思つております。文を書くことは好きですが、何時も紀行文しか出せず、お恥ずかしい次第です。もう八十年を超えましたが、まだまだ足腰は丈夫なので、旅は続けられそうです。今後共、宜しくお願ひ申し上げます。重朝様には淋しくなられましたが、後はまかせて、貞子様は安らかにお眠り下さいませ。



国際靈廟中觀山同願院 昭和寺(諏訪市霧ヶ峰)